



2021年(令和3年)

個室ユニット 推進協ニュース 10月臨時号

【発行】一般社団法人 全国個室ユニット型施設推進協議会 〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町171-1 TEL: 045-921-0462 / FAX: 045-921-0472

推進協 ユニットケア完全実施決議文を厚労省へ提出

赤枝会長 研修体系の確立などを要望 老健局長 次に向け意見交換を表明

10月4日、全国個室ユニット型施設推進協議会(推進協、赤枝眞紀子会長)の赤枝会長ら4名が厚生労働省老健局にユニットケア完全実施決議文を提出した。赤枝会長は研修体系の確立や排せつ支援加算の要件見直しなどの検討を要望した。それを受けて、厚労省の土生栄二老健局長は「今回の改定の検証を行い、各団体と意見交換をしながら、次に向けて考えていきたい」と答えた。



土生老健局長に決議書を手渡す赤枝会長

受講の義務化などを要望

決議文の提出には赤枝会長をはじめ、安江紀子副会長、田伏清副会長、佐々木亀一郎全国個室ユニット型施設推進政治連盟代表が同行し、土生老健局長と意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下の通り。

赤枝会長「限られた人数で良いケアをするには職員教育が大事。任意受講となっている管理者研修の義務化と研修体系の確立を求めたい。」

立を求める。また、排せつ支援を行っている施設では安眠していただくために夜間はおむつを使用しているが、今改定での排せつ支援加算では十分評価されない。要件の見直しを検討してほしい」

安江副会長「ユニットリーダーの配置基準が未だ2名のまま。ケアの質向上のため、全ユニットにリーダー研修を受講した者を配置する基準にしてほしい」
土生老健局長「今回の改定の



厚労省との意見交換

ユニットケア完全実施決議文

平成十五年に新型特養として制度され、既に十八年が経過した個室ユニット型施設は、特別養護老人ホームにおいて約五割を占めるほどとなっている。コロナ禍の中、目標とする七割にはまだ開きがあるものの、過半数を目前にした今、改めて問われるのはユニットケアの質であり、また、改めて評価されるべきはその機能である。ユニットケアは、主としてユニットリーダー研修により質が担保されているが、研修制度開始以来、リーダー研修受講者については一施設二名の暫定配置、また、管理者研修については、任意受講のまま据え置かれている。今こそ不完全な状況から脱却し、質向上のためのユニットケア研修体系の確立を求める。

加えて、令和三年度の報酬改定では、LIFEの説明において、「介護の場は、高齢者等の生活の場でもあることから、(略)、利用者の社会参加、食事の方法、排泄の方法、日中の過ごし方、本人の意思の尊重、本人の主体性を引き出すようなケアの提供方法等について、(略)検討を進めていく。」とし、あたかもユニットケアをこれから検討するかのような説明がなされている。排せつ支援加算での中おむつ外しの低評価、質の向上策無いままのユニット定員の大規模化による効率化の推進等、これまでのユニットケアの取組が

揺らいでいるとの印象を受けかねない状況となっている。

二十一世紀に入り、豊かな長寿社会が形成される中で、人生の集大成を迎える施設での生活は、利用者皆、満足感に満ちたものではない。尊厳とプライバシーに配慮し、地域社会と共に高齢化のセーフティネットとしてユニットケアに取り組んでいる。

改めて、個室ユニット型施設のあるべき姿を、生活支援の視点から個別の介護の在り方にまで、目標として明らかにすることを求める。併せて、その目標到達に向け、各施設が取り組むべき道筋を示すことを求める。

最後に、今般のコロナ禍において全国の介護施設等で大規模クラスターが発生する中、個室ユニット型施設はこれを防止している。この実態を今後の検証で詳らかにし、感染症対策の面での個室ユニット型施設の再評価と個室ユニット型施設の整備促進を求める。

今般、個室ユニット型施設・ユニットケアを推進するものが一堂に会して、改めてその意義を確認し、要介護者が安心して暮らせるよう、右決議すると共に、ユニットケアが二十一世紀の介護スタイルとして広く社会に定着することを進めていく。

令和三年八月三十一日
一般社団法人
全国個室ユニット型施設
推進協議会

入会施設のご紹介

- ◆【岩手】こはく苑 (特養)
(福) 琥珀会
理事長 田代文雄
施設長 田代誠
久慈市小久慈町 19-118-1
- ◆【秋田】ぐるーぷほーむせきがみ
(医) 寿光会
理事長 佐々木亨
管理者 安保春美
鹿角市十和田大湯字前田 29
- ◆【群馬】小泉の杜 (特養)
(福) 和会
理事長 原和隆
施設長 井上恵美子
伊勢崎市田部井町 3丁目 2017-2
- ◆【埼玉】あすなろの郷浦和 (特養)
(福) あすなろ会
理事長 籠島延隆
施設長 前園徹
さいたま市緑区大字三室 3029-3
- ◆【石川】金澤五番丁 (特養)
(福) 眉丈会
理事長 加中英喜
施設長 櫛木敏子
金沢市下本多町五番丁 1 4番地

【会員施設数】 390施設
(令和3年10月5日現在)

高い質を目指す施設の願いを結集 (赤枝会長)

感染症にも強いユニット型個室を推進

ユニットケア完全実施決議大会に200人

8月31日、全国個室ユニット型施設推進協議会の「ユニットケア完全実施決議大会」がオンライン開催され、約200人が参加した。赤枝会長は「原点を振り返り、感染症にも強いユニット型個室の重要性を再確認するとともに、施設の願いを結集し強く推進していきたい」と決意を述べた。来賓挨拶では個室ユニットケア推進議員連盟(ユニット議連)の中村裕之事務局長らが祝辞を述べた。リレートーク、介護保険委員会からの報告に続き、決議文が読み上げられ採択された。決議文は一面参照。

開会式 議員らが祝辞



赤枝真紀子会長

赤枝会長は「ユニット型個室の制度が創設して19年が経過し、この間に私たちを取り巻く環境は大きく変わってきた。原点を振り返り、高い質のケアを提供でき、感染症にも強いユニット型個室の重要性を再確認したい。そして、高い質を目指す施設の願いを結集し、強く推進していきたい」と開会挨拶した。

来賓挨拶(要旨)



【中村事務局長】コロナでユニット型が感染防止にも強いことが立証された。

について、5名の話者がそれぞれの立場から訴えた。

江澤和彦氏

(日本医師会常任理事)

「報酬改定のポイントと今後のユニットケア」



令和3年度の介護報酬改定で努力義務となった看取りや

管理栄養士の配置などの加算は、いずれも質の向上につながる。今後、義務化される可能性が高い。新設された自立支援促進加算の取得はユニットケアを実施している施設が最短距離にある。質の高いケアを提供することで、加算を取得できる施設が増えることを期待している。

山田尋志氏

(リガール暮らしの架け橋理事長)

「法人連携によりユニットケアの推進を」



小規模法人には3つの課題①サービスマネジメントや人材育成など



【三宅議員】自身の両親も施設でお世話になっていて、一緒に学びながら、ユニット型施設の推進に努めたい。



【木村前参議院議員】コロナでユニット型個室の重要性を訴え、推進していきたい。

【自見議員】ユニット型個室の感染対策は素晴らしい。ユニット型個室の重要性を訴え、推進していきたい。

松田昇氏

(一般社団法人わたいば代表理事)

「故外山義の目指したユニットケア」



入居者の重度化、介護給付費の抑制、人手不足、感染症対応など、私たちが取り巻く環境は厳しい。しかし、外山先生が命懸けで日本に定着させたユニットケア。逆行して施設を再び集団ケアを行う入れ物にしてはならない。記録や見守りシステムなどを利用して効率化することで得られた時間を活用し、ユニットケアをバージョンアップしていきたいでしょう。

松本均氏

(横浜リハビリテーション事業団事務局長)

「自治体から見たユニット型施設の課題と期待」



ユニット型個室は多床室と比べると感染拡大を封じ込めやすい点で優位だ。その一方で利用料が高い、生活感の無い形だけのユニットケアが行われている施設もある。といった課題もある。私たちは「ユニット型だと低所得者が入れないから多床室を作るべきだ」という考えにならないよう個室ユニットの重要性を説いたり、利用者にとって魅力的なユニット型特養を作ったり自治体にPRして良さを知ってもらおう努力が必要だ。

稲庭千弥子氏

(友遊会理事長)

「歴史を振り返って改めて考えるこれからのユニットケア」



今から40年前、医師になりたての私は、スパゲティ症候群、多剤併用など当時の治療ケアの

在り方に疑問を抱いた。そこで、老健、全国初の認知症病棟、グループホームを開設し、より良い治療ケアや環境を模索したり、厚生省と共に欧州の施設を訪れ研究したりした。そうする中でユニット型個室の必要性にたどり着いた。ユニット型個室を推進するために、質の高い魅力ある選ばれる施設づくりが必要だ。

介護保険委員会からの報告

続いて、介護保険委員会(藤村二郎委員長・久住会理事)の各委員が報酬改定による加算や人材不足の状況下、施設が抱える課題について報告した。

無資格未経験介護人材の育成を加算が阻害する(八木勲委員長(照陽会・みんなと暮らす町施設長)・新卒の介護福祉士の確保が難しい状況下、未経験や無資格者を採用して育成しようとするならば、介護福祉士割合が下がり、サービスマネジメント加算が取得できなくなる。人件費はかかるのに収益が下がってしまう。改善を訴えたい。

人材不足への抜本的対策(生産性向上に向けて)(八木勲委員長(豊中福祉会・ローズガーデン条南苑専務理事) ※資料提供)

地域包括ケアにおける特養の役割低下問題(若月剛治委員長(春生会・あさひが丘施設長)) 入居要件が要介護度3以上になつて地域における特養の役割が低下した。一方、受け皿不足でヤングケアラーや介護離職はさらに増加が予想される。社福軽減の100%実施や地域支援に取り組む、地域の利用者を支えた。国には入居要件を1以上に戻すよう働きかけたい。

利用者不足について(西慶二郎委員(聖心会・明尽苑施設長))

千葉県は後期高齢者の増加率が全国一であるにもかかわらず、待機者不足、利用者不足に陥っている。特養の4段階の費用負担よりも安い有料やサ高住が3割近くある。LIFEの評価項目にあることを既に行っているユニット型個室の高い評価を望む。

採用の困難さ。派遣・紹介事業の高コスト問題(熊井亨委員(元気村・このすたんぽポポ翔裕園施設長)) 人材紹介事業者を介して採用した職員は、突然来なくなる、体調不良で勤務できなくなる、更新時期になると辞めるといった人が半数を占める。紹介手数料も想定年収の3割程度と高コスト。1時間程度の面接で見極めることは難しい。業界全体で登録スタッフの質の担保を求めることが必要だ。

排せつ支援加算の改善(上田かな委員(樹陽会理事長)) 排せつ支援加算は報酬改定後、最も高い評価を得るには夜間もおむつを外さねばならず、安眠の妨げになり現実的でない。しかも改定前は月100単位だったのが20単位となり、職員のモチベーションも上がらない。おむつやパッドを使わないことを評価するのはなく、取り組む姿勢や過程を評価してほしい。

藤村委員長による総括

各ユニット型施設の取り組みや方向性がずれることで質の低下を招き、報酬上の評価が減少することがあってはならない。そのためにも以下の3つの視点が重要だ。①ユニットケアの質向上のための研修体系の確立②ユニット型施設のあるべき姿を目標として明確化③目標到達に向けて施設が取り組むべき道筋の明示。これらを決議の中心に据えたい。